られたのは素より一ケ月に亘る争議の継続して結束地まず絶大な成果の色なく團結力の眞に強靱なる今後資本家階級は

産業の 立憲的

の基礎の基に勞働者を動かすこと云ふ事を考慮の中に入れなければならなければ眞劍に思はしの點之等が總て勞働者の成果として、偉大な成績物こと言はないで置かれやうか……然し以上の所論は大なる勞働運動に對しての成果と、亦爭議の大なる

副産物

であるから爭議團は之だけで決して止むものでなく續行勞働運動の本質以外新川崎、鋼三菱ご表面に表はれた對抗戰に對しても充分滿足するに足るべき結果を得たいと望んでゐる、そして滿足に足る解決を得られねばなれば一人々々が奮鬪を繼續する、そして悉く負けた迄で勞働運動の

本質上

前に言つたやうな充分な副産物を獲得しその全國の勞働者に記念として立派に討死する事が出來ると考へて居る、兎に角解決の曉はまた決して遲くない、勞働運動に極めて重要な成果を得た事は別として對會社戰は

滿足な

結果を得るのでなくては容易に爭議を終熄しまいであらう……」云々

出勤工數一進一退

寢返り氣迷ひを出した模樣

川崎は二百減、三菱四十增

新陣容

の旗幟を高々く打擊を蒙り一日の出勤職工數全期待に反する少數の增員を見たのみであつたが昨二日も入場八月三社總計一千九百八十名で造船所內訳は造船部一千百八十一名、造機一千五十五名、修繕五百八十七名、機務二百九十四名で兩日千二百人の入場增加と發表即ち前日に較べ僅か四十四名の增加で增加率著しく低下の傾め會社側は工佐長をして愈よ切崩しの猛運動を開始しつゝあるが職工側も

此防止

策に就き一日夜深更まで最高部會を開いて協議の結果保安委員增員に決し二日朝來廣に各職工の家宅を訪問結束固めの活動を試みたご

又三菱

造船所も同じストライキ

盟休饅頭を煩張り

活氣橫溢の爭議聯合本部

市長の講停問題に 『尾行巡査入場お斷り』 が咲く

話の要

點は例の拔劍問題や會社側の職工就業強請、不法檢束等であつた鈴木氏は宿所を別に取つて毎日聯合本部に顏を見せて居るが裸で寢に露スッカリ風邪を引き込み寢り出なくなるお鯛氏を始め總部を加えて顏ハ活氣、草鞋の紐を堅く結び元氣なもので樣上に陣取り

訪客を

は努めて謝絶を業めては調査に際が出る「警察がかゝつて切りも念が無い、東京から應援の石川氏は一日夜演說會の輸送革命歌を唱元氣が好い、ストライキ饅頭を御つたさか何うしたこか、刑事六名が本部まで尾行して來たが刑事は鈴木氏の一喝に遭つて手もなくドつたこ笑ひ話が出る、市長の調停問題に話に出たが『仲裁に任すこした處でまだ爭議團側の意見こ大分

距離が

あるから駄目だ』こ云ふ、其中電話が消滅く鳴る『警察へ繋がれるナ』こ彌次此の記

裏切者は飽迄追窮

全國に雇傭主の無いやう通告

川崎爭議團の決議

一拔劍問題でウンこ仇討するサこ

傳令が

盛に往來する毎に社服姿らしいのが窓から覗く『尾行巡査入場』の貼札が窓々にビラ〳〵掲てるのも前日『常峰君危篤、午後二時重體注射の指示が出る』もう駄目だナ』

一度警

官隊占領さ

れた川崎爭議本部は鈴木會長が絡繹に突破の結果再び爭議團の手に奪還し桑田喜三郎氏を議長に池田武雄氏を副議長に何れも新しい幹部の顏觸れで二日午前十時より第二日目の會議を開いた、此日は前日決議した裏切者こは飽くまで

絶交す

べき事を更により强く固め左の通り決議した

去月二十五日川崎造船所が始めして以後出勤した職工の裏切者に對しては今後委員を選んで會社側に交渉を開始する際裏切職工を必ず解雇されるやう會社側へ要求する事

爭議團本部で裏切者と認め署名を附した者はその住所氏名を全國の各工場に通告し今後何れの工場にても絶對に雇傭せぬやう通知する事

右の決

議をした上尚今後の團結を强固ならしめる爲め幹部二十數名は各自別に職工の宅を訪問する事を協議し午後二時解散した、幹部一「無援團が來て呉れた爲めに一同はウンこ活氣付き

不安に

思ふ人達ノ安心させ、結束を固くする爲めの手段を協議し言論戰、結果を見る迄は此狀態を持續するつもりです」こ語つた

拔劍問題、警察を告訴

官憲の不法を鳴らし爭議團

愈よ調査研究に着手す

川崎爭議團は鈴木會長を始め桑田池田兩副會長の指揮の下に職工に就業を强請、誘惑せしめたに際し暴行拔劍を以て脅迫した不法並に爭議團本部に不法檢束等に關し勞働爭議團は去月二十九日勞働爭議の警官に長劍で背部から腹部へかけ突き刺され重傷を負ふて大學病院に入院目下治療を受けつゝある川崎造船所庶務課長分工場掛長常峰俊一君は其後の經過捗々しからず二日の如きは全く危篤こなつたので死期は近づきつゝあるを聞つた同君に實母を始め親戚、爭議團の見舞人等を枕許に呼び『自分が三方幾人の勞働者の犧牲こなつて死ぬ事は此上も無い幸ひである、自分の死んだ後は一層團結を固うし飽く迄も初志を貫いて貰ひたい』この言葉に十分聽き取れず昏睡狀態に陷つてしまつたご、同君の

德永に弔辭を

兩爭議團から

二十九日、三十日兩日の勞働爭議で重傷した職工に金六十圓を贈り見舞こして贈つた市內西川町納谷筋生魚商德永丑松(四)君は一日朝尾崎居場で伊太利東野マラスキーの操縱する飛行機に同乘、離陸の際機體死した事は既報の通りだが此事を知つた川崎、三菱兩爭議團同情者を慰した事を悼み直に弔辭を送つた、同君の狀を述つたご